

平成 29 年 豊岡市賀詞交換会 市長新年あいさつ

明けましておめでとうございます。今年 1 年が、皆様にとって笑顔あふれる年になりますように。

とは言いながら、暖冬の気配です。神鍋をはじめ、既に暖冬対策を担当部署に指示しておりますが、もちろん対症療法も必要だろうと思います。元気を出すためのイベントも必要だと思う一方で、豊岡の観光の在り方を、1 年を通じて稼ぐ体質に抜本的に変えていく。そのことに、さらに力を入れてまいりたいと思います。

昨年末、新潟県糸魚川市で大きな火事がありました。他人事ではありません。いざというとき、トップは何をすべきなのか。毎日、記者会見をすること、マスコミ等を通じて市民の前に姿を現し、市民を激励することなど、災害発生時にトップがやるべきことをまとめた資料を糸魚川市長にお送りしました。

また、規模は圧倒的に違いますが、一昨年、城崎でも大火がありました。そのときに、地域の皆さんが苦しんできたこと、うまくいったことなども資料としてまとめ、これも参考になればと糸魚川市長に送らせていただきました。

私たちの平穏無事な日常も、常に危機と隣り合わせです。いつ大火が起きるとも知れません。震災があるかも分かりません。引き続き、みんなで力を合わせて、緊張の糸を緩めることなく、しかし平時はにこやかに、みんなで安全と安心を守り抜いてまいりたいと思います。

そうした中でございますが、本日は、谷先生、門間先生をはじめ、ご来賓の皆様方、多くの市民の皆様方が一堂に会することができました。今年 1 年、豊岡がさらにさらに良いまちとなるようみんなで力を合わせていきたいと思いません。

昨年はいろんなことがありましたが、特に印象に残ったことが二つあります。

一つは、クリーンパーク北但が完成したことです。私が市長になって関わってからでも丸 15 年がかかりました。ようやく皆様のごみを新しい施設で処理できるようになりました。その経過では、激しい議論がありました。裁判もあ

りました。しかし、関係者が一丸となって、みんなのごみを安全に、確実に、着実に処理するのだと、強い思いと責任で今日までくることができました。職員はもちろんですし、ご支援をいただいた多くの皆様に改めて感謝を申しあげたいと思います。

朝、ごみを出すといつの間にかそのごみが無くなり、誰も知らないうちにごみ処理場に送られ、そして、誰も見ていないところで安全に処理されている。こういったことに関わる人々のことを“アンサングヒーロー”と言うんだそうです。決してうたわれることがない、称えられることがない、そんな英雄たち。

これは、ごみ処理だけではありません。下水処理もそうです。水道でもそうです。あるいは、冬期の除雪作業もそうです。人知れず市民の暮らしをしっかりと支えている。こういう人々の努力があるからこそ、私たちの暮らしがある。そのことを表現した言葉なんだそうです。

考えてみますと、市役所の仕事の大半がそうであろうかと思えます。派手な部署ばかりではありません。しかしながら、市役所職員一丸となって、あるいは、議会の皆様とも一丸となって、今年1年、“アンサングヒーロー”として皆さんの暮らしを支える一員として、頑張ってまいりたいと思えます。

嬉しかったこともありました。コウノトリ育む農法のお米が、「米・食味分析鑑定コンクール」で日本一に輝きました。

神鍋で農業を始めて7年目の青山直也さんの作られたお米が、全国の腕自慢の方々の選りすぐりのお米 5,671 点のうち、同率でありましたが堂々の1位、“日本で一番おいしいお米”に認められました。さらに、出石のグリーンいずしという企業が作られたお米も同率 69 位で 100 位以内、こちらもコウノトリ育む農法のお米でした。

お一人だけならその方の栄誉でありますけれども、お二人が受賞され、しかも、高原と平地のお米作りがどちらも認められたということで、豊岡のコウノトリ育む農法に携わられる農家の方々のレベルの高さを全国に示したのではないかと大変喜んでおります。クリーンパーク北但も足掛け 15 年かかりましたけれども、コウノトリ育む農法もスタートしてから 15 年が経過しました。その間、無農薬で安全、生きもののためには良いけれど、あまりおいしくないとの批判

もお聞きしたこともありました。しかし、みんなで努力を重ね、日本一に輝くことができた。素晴らしいチームができたと思います。この道をさらにさらに進んでいきたいと思っております。

今年、市役所の職員に訓示をした1年間の心構えは、“対話と共感”です。対話をしなければいけない。なぜならみんな意見が違うからです。もちろん計算間違いであるとか、物理的な法則によってはっきりとした間違いがあることもありますが、私たちの暮らしの多くは、価値観の違いであったり、物の捉え方の違いであったりで意見が異なることが多々あります。それでも、意見の違う者同士が集まって答えを出さなければいけない。その時に、腕力でねじ伏せるのではなく、あるいは、お金の力でねじ伏せるのでもない、対話でもってお互いが納得しながら、みんなの共同作業で結論を出していく。その姿勢をしっかりと貫いてまいりたいと思います。

例えば、昨年、日高医療センターの在り方検討を進める中で、日高地域の皆さんの大半が、なんとかベッドを残してほしいという要望をされました。他方で、病院組合は、極めて冷静に今後の人口構造や需要推計を見ながら、要らないという答えを出しました。ここには余りに大きな差があるということで激しい議論になりました。だからこそ、対話が必要なのだらうと思います。お互いの言い分にしっかりと耳を傾け、そしてお互いの言っていることの文脈に耳を傾け、そしてその違いを埋める努力をする。勝った負けたという話ではなく、みんなが納得できる結論をどう導き出すか、そのことはとても大切だと思いますし、病院組合と市民の皆様との間でそのような作業が進んでいることは望ましい姿だと思います。これは、一例ではありますが、さまざまな場面でその姿勢を貫くことで当事者が共感を共有し、その共感をエネルギーに変えてまちづくりを進めていく。そんなまちの在りようを探っていきたいと思います。

今年もやはり最大の課題は、地方創生＝人口減少対策です。あまりに激しい人口減少で、その量の圧倒的破壊力は無視できない。そこで人口減少を止めることはできませんが、せめて目標値を定めて和らげる、これが地方創生の一番の狙いです。しかし、目標が達成できたとしても、なお人口が減ります。そこ

で、それでもなお元気なまちを創るという二階建ての作戦になっているのが地方創生の特色です。

豊岡の人口減少の原因は、はっきりしています。社会増減の動向を年齢刻みで見ますと、ほとんどの年齢階層で社会増減は起きていません。出る人もあれば、入ってくる人もあってイーブン。しかし、10代は圧倒的な赤字です。20代では黒字になりますが、10代で転出した人口の35%しか帰ってきていない。ここで若者の大赤字が生じます。その減った若い人たちの未婚率は少しずつ上昇していますから夫婦の絶対数が減る。夫婦一組当たりが産む子どもの数は増えています、夫婦の数の減りの方が大きいので、少子化が進みます。減った子どもたちは、また10代後半を迎えると豊岡を離れる。この繰り返しの中で人口減少は進みます。とすると、私たちがやるべきことははっきりしています。いかに10代の減少を食い止め、20代での転入をもっともっと大きなものにするか。

では、なぜ若者は帰ってこないのか。あるいは、入ってこないのか。豊岡や地方が貧しくてつまらないと思っているからだと申しました。私や皆さんが思っているということではありません。私たちは、豊岡の暮らしを楽しいと思ひ、この地の暮らしに価値を見出し、誇りを持っています。しかし、若者がなぜ帰ってこないのかを考えると、豊岡を選ばなかった人々は、豊岡で暮らすことの価値自体を過小評価している、あるいは、否定しているんだろうと思ひます。とすると、私たちがやるべきことは、豊岡で暮らすことの価値を再発見する、創造する、再創造する。そして、そのことをしっかりと訴えていって、若い人たちのふるさとに対するイメージを変えていただく、そのことに努力の全てを傾注していきたいと思ひています。

しかしながら、この国で、大都会や東京は偉くて、小さな人口のまちは偉くない。あるいは、大企業は偉くて、中小零細企業は偉くないといった価値観は非常に堅いものとして私たちを閉じ込めています。これを壊さなければいけない。そのための私たちの旗印が「小さな世界都市」です。世界の中で評価をされ、輝くことを通じて、日本の中での価値の序列を壊していこうという作戦です。コウノトリの取組みは世界的な評価を得るまでになりました。昨年末、メキシコで行われた生物多様性条約第13回締約国会議に市の職員がJICAの依頼

で出張し、豊岡の取組みを話すくらいになりました。

外国人のお客様は急増しています。一昨年、約 34,000 人だった外国人宿泊客数は、昨年 1 月から 9 月で約 32,000 人となり、対前年同期で 41% の増。さらにこれからも増えていくだろうと思います。世界の人々が、豊岡の固有の価値、ローカルな価値に気が付いてきた、その表れではないかと思います。

城崎国際アートセンターには、世界中から優れたアーティストが続々とやってくるようになりました。この道は、まだまだ途上ではありますが、私たちは確実に世界で輝く資格がある、そう思います。やるべきことは、世界に通用するローカル、世界に通用する地域固有をもっともっとみんなで磨いていくということだろうと思います。この道が正しいことを信じて、まっしぐらに皆さんと共に進んでまいりたいと思っています。

ただし、人口減少対策では反省があります。気付くのが 10 年遅かった。と言うと、みんな気付いていたとおっしゃるかも知れません。気付いていました。しかし、真面目にその実態を見ることを私たちは怠っていました。子どもたちがいなくなるということは分かっていました。地域で人々の数が減っていることも知っていました。しかし、その原因がどこにあり、どうすればいいかということ私たちは真正面から取り上げるということをしなかった。これは、私たちの大きな反省です。

そこで、まだ検討途中ではありますが、豊岡市役所や豊岡市の目となり、耳となり、アンテナとなるような組織を新年度に作りたいと思っています。しかし、市役所の中にそのような人材はまだおりませんので、専門家の力を借りて、豊岡を中長期で見たときに、どういう課題を持っていて、どのように分析ができるのか。その危機をいち早く探し出し、手当てをしていく。あるいは、豊岡の可能性がどこにあるのかをしっかりと分析をしたうえで、その分野にエネルギーを注入していく。そういったことのきっかけになるような機能を豊岡市役所に備えたいと考えています。私たちは、自分に降りかかっている危機を見知らぬ顔をして、心の平穏を保とうという強い働きを持っています。みんな逃げ遅れる。地方創生もそうであったと思います。しかし、これからはその危機から目をそらすことなく、直面をして、みんなで必死に歯を食いしばって頑

張っていく。そのような体質、体制を豊岡市役所と豊岡市にもたらしたいと考えております。私がいただいている任期はあと僅かではありますが、全力を尽くしてこの道を歩んでまいりたいと思っております。一人の力は本当に小さいものでありますけれども、みんなで力を合わせれば必ず答えを出すことができる、そう信じております。

今年1年の皆様お一人お一人の健康と、皆様のご家族、同僚の皆様方、地域の方々の健康をお祈りし、また、皆様のご活躍を期待いたしまして、私の年頭のあいさつといたします。ありがとうございました。